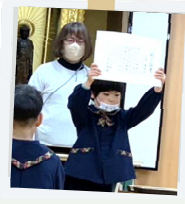




3月
1年間
ありがとう
ございました

しょくいんしつだより



今年度も残り1週間となりました。卒園式を間近に控え、つき組さんたちはお部屋で証書をもらう練習をして、先週からホールでの練習を始めました。つき組最後の行事となる卒園式です。証書を園長先生から受け取った後、証書を掲げ、お父さんお母さんにメッセージを言います。毎日お稽古をしていると、昨日とは違う「ありがとう」を言っている姿がたくさんあります。それはきっと子どもたちの中で、「あれも嬉しかったな…これも言いたいな…」とお父さんお母さんとの思い出がたくさんよみがえってくるからなのかなと感じます。当日は立派に成長したつき組29人の姿を楽しみにしてください。



おやこの じかん

以前NHK総合TVの「チョコちゃんに叱られる！」で紹介された「親と一緒に過ごせる時間は？」という質問が放送されたことがありました。親と離れて暮らす子ども(成人)の場合、親と会う平均日数(1年間)は平均6日間(盆・正月など)。帰省しても1日中親と一緒にいるわけではないので、親と顔を合わせる平均時間(1日)は4時間。つまり、親元を離れて暮らす子どもの場合、親と過ごす時間は6日間×4時間=1日分(24時間)。1年につきたった1日分しかないという計算になります。

これを、「わが子と生涯で一緒に過ごす時間」に言い換えると、生まれたばかりの赤ちゃんが大学進学タイミングで実家を出ていくと仮定すると約18年間過ごすことになります。しかし実際には、小学校、中学校、高校と成長するほどに家にいる時間は減り、休日も親と過ごすよりは友だちと遊びに出かける頻度が増えてきます。そう考えると、実質的に親子で一緒にいられる時間は、もっとずっと短いはず…

母親:約7年6ヶ月 **父親:約3年4ヶ月** これも、「チョコちゃんに叱られる！」で紹介されたものです。

お仕事の時間、園に行っている時間、通勤時間や睡眠時間を除くと共働きの夫婦で平日で平均3時間が、子どもと一緒に泣いたり、笑ったり、話をしたりする時間です。その時間をどう使うのか…。

青山渋谷メディカルクリニック名誉院長の鍋田恭孝先生は、「一緒にいる時間が少なくても、子どもに『申し訳ない』という気持ちをもつ必要はない」と述べています。

共働き家庭が増えている今、子どもと接する時間が十分に持てていないのではないかと不安になり、子どもに対して「申し訳ない」という気持ちをもっている親が増えています。でも、たとえひとり親の家庭であっても、子どもとしっかり接する時間を1日に3時間も持てれば、母親が専業主婦だという家庭と比較してもなんら変わらず子どもはしっかり育っていくという研究報告もあります。

(引用元:StudyHackerこどもまなび☆ラボ | 子どもを見えなくさせる「期待と不安」というフィルター。親子は一心同体?)
たとえば朝、少し早めに起きればバタバタせずに余裕をもって親子のコミュニケーションを図ることができます。ゆっくり朝食を食べながら学校の話やお友だちの話を聞くことも、親子のかけがえのない時間です。また夕食後も、家族がそれぞれの部屋にこもるのではなく、たまには一緒にテレビを観たりゲームをしたりすると、会話も弾んで楽しく過ごすことができます。『申し訳ない』という気持ちをもって子に接するのではなく、限られた3時間を『大切な宝物』だと考えて、楽しい時間にしてあげてください』という鍋田先生のアドバイスを忘れないようにしたいですね。

(参考元:StudyHackerこどもまなび☆ラボ)